

# 安芸高田 歴史紀行

## 八千代町土師 桑の木古墳 鉄刀 ～紺碧の湖に眠る土師の首長の証～



安芸高田市歴史民俗博物館  
学芸員 和田 麻衣子

シリーズ  
「博物館コレクション」第12回

### 桑の木古墳

江の川(可愛川)沿いの低丘陵に造られた、土師地区では最大の直径15m、全長9mの横穴式石室をもつ円墳です。発掘調査では床面に丁寧な敷石をもつ玄室から鉄刀や鉄鏃、ガラス小玉や金銅製耳環などが発見され、これらの出土品から古墳時代後期の6世紀後半〜7世紀初め頃に造られたことがわかりました。現在古墳があった場所は土師ダムの貯水域となっています。

### 鉄刀と刀装具

日本には弥生時代に鉄が伝わり、古墳時代中頃になると、古墳には被葬者の力を示す刀や剣、農・工具など多くの鉄器が供えられます。古墳時代の刀は、中世以降の日本刀とは違い、直刀とよばれる刀身が真っすぐで反りのない形が一般的です。桑の木古墳から見つかった鉄刀6本のうち1本は刀身の長さが72cmもある大型のもので、一度に見つかった鉄刀の数としては県内で最多の副葬です。柄の一部に木質片が付着し目釘穴もあることから、木製の柄がついていたことがわかります。また、鍔・鞘尻・鐺などの刀装具が共に出土した貴重な例でもあります。

### 【桑の木古墳から出土した鉄刀(6本のうちの5本)】



### 【刀の部位・装具の名称】



### 土師地区の古墳群

土師地区は、桑の木古墳と同じ横穴式石室をもつ新開古墳群・権現古墳群・七郎谷古墳群など、6世紀後半から7世紀初めの古墳が密集しています。なかでも土師大迫古墳(県史跡)は、石室が赤く彩色された県内で唯一の例です。これらの古墳の副葬品にも、鉄刀などの武器・青銅製の耳環などの装飾品がみられますが、特に最大規模の石室をもち6本もの鉄刀が見つかった桑の木古墳の被葬者は土師地域一帯の盟主的な首長であったのではないのでしょうか。



選出 日本百名城郡山

# 祝！歴史民俗博物館 開館30周年

平成2年3月28日に開館した安芸高田市歴史民俗博物館が令和2年で30周年を迎えます。平成9年の大河ドラマブームを経た後、日本百名城選定も契機となり来館者数は増え、現在は全国から年間1万人以上が来館。市を代表する観光スポットになりました。30周年を記念して、4月1日(水)から記念企画展を開催。特別感いっぱい博物館へぜひお越しください。

### 【当館略年表】

和暦	西暦	主な出来事
昭和46	1971	「吉田郷土資料館」開館(当館の前身)
平成 2	1990	「吉田町歴史民俗資料館」開館(当館) 特別展「毛利元就」開催
平成 8	1996	NHK大河ドラマ「毛利元就」決定 元就村との共通券発行
平成 9	1997	大河ドラマ「毛利元就」展開催 常設展示「中世吉田ゾーン」オープン
平成12	2000	開館10周年記念式典
平成15	2003	常設展示(通史ゾーン)リニューアル
平成16	2004	合併により安芸高田市誕生 「安芸高田市吉田歴史民俗資料館」へ改称
平成17	2005	登録博物館となる
平成18	2006	郡山城、日本100名城に選定される
平成19	2007	当館に100名城スタンプ設置(ラリー開始)
平成22	2010	「安芸高田市歴史民俗博物館」へ改称 通算入館者50万人達成
平成23	2011	第2・3展示室オープン、多目的室改装
令和 2	2020	開館30周年



開館セレモニー (平成2年3月28日)



大河ドラマブームで賑わう館内 (平成9年)

## 博物館の30年と蔵出し至宝展

開催期間 4月1日(水)～5月31日(日)

博物館が所蔵する資料から、頼山陽筆の「吉田駅詩」や新発見されたダム建設前の土師のカラー映像など、普段の常設展ではなかなか目にすることができない歴史的価値の高い蔵出し資料を厳選公開します。博物館の歩みを振り返る歴代企画展のポスターや年表も見どころのひとつです。

**ここもチェック!**  
企画展展示解説  
4月4日(土)、4月25日(土)、5月23日(土)の3日間、11時から11時30分の間、担当学芸員が企画展を分かりやすく解説します。蔵出し資料について聞ける貴重な機会をお見逃しなく。



浄国寺観音堂 木造地藏菩薩半跏像



頼山陽筆「吉田駅詩」

安芸高田市歴史民俗博物館  
〒750-0278 吉田町吉田278-1 ☎42-0070 9時～17時 休 月曜(5/4は開館)、4/30、5/7  
大人300円(200円)、小中学生150円(100円) ( )内は20名以上の団体  
5/5は中学生以下無料